

知的障害特別支援学校に求められる 教育課程編成の視点の検討

－卒業生と保護者を対象とした質問紙調査の結果から－

野崎 美保¹・栗林 睦美²・和田 充紀³

Issues about Curriculum Policy for Special Needs School with Intellectual Disabilities : Questioner Survey for graduates and Their Parents

Miho NOZAKI, Mutumi KURIBAYASHI & Miki WADA

摘要

知的障害特別支援学校卒業生とその保護者を対象に質問紙調査を行い、その結果から学校教育の成果と課題について考察し、特別支援学校における教育課程編成や改善の方向性を検討することを目的とした。労働、生活、余暇の視点に加えて、特別支援学校における教育活動には、時代の流れを反映した教育内容や活動が意図的に追加されてきている。卒業後の生活を考慮し、必要で不可欠な、そして時代の流れにそった教育活動を在学中に提供することが求められる。卒業生や保護者の意向を反映した教育課程編成の必要性が示唆された。

キーワード：知的障害、特別支援学校、教育課程編成

Keywords：intellectual disabilities, special needs school, curriculum policy

I. はじめに

文部科学省（2016）は教育課程編成において、社会に開かれた教育課程の必要性やチーム学校の視点での教育活動の重要性を指摘している。障害のある児童生徒の教育活動計画にあたり、本人を取り巻く家族や地域の人々、様々な支援者の意向を反映することが求められている。このことに加えて、特別支援学校在学学生にとって現在の生活の充実や卒業後の自立した生活をめざすためには、特別支援学校を卒業した人々がどのように自立した社会生活を送り、どのような課題があるのかについて把握することが必要である。そして、卒業後の生活を送る上で、学校在学中の学習がどのように役立っているのか、あるいは学校在学中にどのような学習をする必要があるのかについて、卒業生の実態や卒業生の意見、また卒業生保護者の意向を把握した上で学校における

学習活動の意義や課題を検討することが必要であると考える。

筆者らは、調査対象であるT大学附属特別支援学校（以下T特別支援学校）にそれぞれ勤務し、知的障害のある生徒の高等部卒業後の生活を見据えながら教育活動を実践し、教育目標の設定と改善、教育計画の作成、年間指導計画への反映と改善を行ってきた。T特別支援学校では、「労働」「生活」「余暇」を3つの柱として個別の教育支援計画の目標に位置付け、教育課程にも3つの柱を反映させながら、教育活動を展開している（和田・栗林・池田，2015）。在校生の日常の様子や卒業生及び保護者との会話から、学校の教育課程、教育活動そのものが在校生や卒業生の生活に大きな影響を与えており、更には保護者の意識をも変えることが推察された。

栗林・野崎・和田（2018）は、知的障害者の学校卒業後が豊かで充実したものになるためには、卒業前にどのような取組が求められているのかについて検討することを目的として、保護者を対象とした質問紙により、特別支援学校卒業後における知的障害者の就労・生活・余暇に関する現状と課題について

¹ 富山県立富山総合支援学校

² 富山県立高岡支援学校

³ 富山大学人間発達科学部

調査した。その結果、就労では、人間関係・コミュニケーションなどでの困難はあるが、職場の人が相談相手となることで、就労の安心と充実につながっている現状や就労に関する高い充実度がうかがえた。生活や余暇については、家族と一緒に過ごし、困難には家族が対応している割合が高かった。「親亡き後の将来への生活の不安」や「家族とだけではなく友達や支援者と余暇を過ごすこと」「余暇のレパートリーを増やすこと」等の生活や余暇に対する課題も見出された。卒業後の長い生活を見据え、「相談できる機関等の情報」「余暇に関する学習の機会」など、学校教育に求められることや取り入れるべき内容についての示唆が得られた。

では、在学中にどのような学習に取り組んだことが実際の卒業後の就労・生活・余暇を支える力につながっているのだろうか。卒業生本人及びその保護者が、学校で学んだ学習内容について、現在、どのように思っているのかを知ることにより、学校での学習の成果がどのように現れているのかをとらえることができるのではないかと考える。しかしながら、学校の教育活動が卒業後の生活にどのように影響を与えているのか、卒業後に学校での教育がどの程度役立っているのか、あるいは、学校の教育活動に何を望んでいるのかについて、卒業生の視点を取り入れた研究はほとんどなされていない。わずかに筑波大学附属大塚支援学校において卒業生の生活の実態から学校教育の課題を考える研究報告がなされている（別府・田上・阿部・宇佐美・松岡・本間・居林・伊藤・篠原・米田：2009，田上・別府・阿部・宇佐美・松岡・本間・居林・伊藤・篠原・米田：2009，別府・本間・田上・宇佐美・松岡・居林・西原・伊藤・阿部・篠原・米田：2010）が、研究報告数はかなり限られている現状である。

そこで本研究では栗林・野崎・和田（2018）に引き続き、学校で取り組んだ具体的な学習内容について、卒業生とその保護者に対して調査を実施することとした。得られた回答をこれまでの福祉制度や学校における教育課程の変遷とも関連させて分析することにより、学校教育の成果と課題を明らかにし、学校教育に求められている取組や卒業後の就労・生活・余暇を支えるために学校にできることや必要とされている具体的な学習内容や教育課程について検討する。

本稿では、調査結果を抜粋して報告するとともに、

教育課程編成の視点について考察した。

Ⅱ. 方法

1. 調査の内容・項目の選定

T 特別支援学校は個別の教育支援計画および個別の指導計画の目標設定や教育課程編成において「労働」「生活」「余暇」を大きな3つの柱としてとらえて目標設定や教育内容を編成している。調査項目を選定するうえで、この3つの柱に沿って具体的な調査項目を選定することとした。

さらに、教育課程に位置付く教育内容が網羅できること、教育課程編成の視点が含まれることを考慮するとともに、上岡（2007）の「指導課題チェックリスト」の項目を参考に、「学習・行事」「人との関わり」の2項目を加え、「労働」「生活」「余暇」「人との関わり」「学習・行事」の5項目を大項目とした。

次に、大項目を具体的にした中項目39をそれぞれ選定した。さらに、卒業生および保護者が回答しやすいように、それぞれの中項目に具体的な学習例を挙げ、それを小項目とした。在学中の学習名や具体的な学習内容を例として挙げることで卒業生にとっては在学中のことを想起しやすく、また保護者にとっても日常の連絡帳や懇談会、成績や学習状況が記載された連絡簿などで馴染みのある学習名等であるため回答がしやすいと考えた。また、卒業生本人用の質問紙には漢字に振り仮名を付けた。最終的に51の小項目で構成した。

具体的には次のとおりである。

まず、大項目「労働」の中項目としては、「働く体験」「働く態度」「働く技能」「人との関わり」「進路の選択」の5つを選定した。それぞれの中項目はさらに具体的に、中項目「働く体験」は「作業学習」「チャレンジ活動」「自己評価」の3小項目、中項目「働く態度」は「集中力」「責任感」「安全」「ストレスへの対応」の4小項目、中項目「働く技能」は「正確さ」「作業スピード」の2小項目、中項目「職場での人との関わり」は「挨拶・返事・報告」「人との協力」の2小項目、中項目「進路の選択」は「事業所見学」「校外就業体験」「事前学習」「自己選択・自己決定」の4小項目を選定し、最終的に大項目「労働」は15の小項目で構成した。

大項目「生活」の中項目としては、「食事」「睡眠」「排せつ」「着衣」「清潔」「手洗い」「調理」「買い物」

「洗濯」「清掃」「ごみ」「美化」「こよみ・時間」「天気・気温」「受診」「選挙」「卒業後の生活」の17中項目を選定した。中項目「卒業後の生活」は「将来の自分」「卒業後の家庭生活」「福祉サービスの利用」の3つの小項目を選定した。他の中項目に対してそれぞれ具体的な学習例である小項目をそれぞれ一つずつ選定し、最終的に大項目「生活」は19の小項目で構成した。

大項目「余暇」の中項目としては、「施設の利用」「交通機関の利用」「余暇活動」の3つの中項目を選定した。この中項目に対してそれぞれ具体的な学習例である小項目をそれぞれ一つずつ選定し、大項目「余暇」は3つの小項目で構成した。

大項目「人との関わり」の中項目としては、「応対」「人との関わり」「異性との関わり」「きまり・マナー」の4中項目を選定した。この中項目に対してそれぞれ具体的な学習例である小項目をそれぞれ一つずつ選定し、大項目「人との関わり」は4つの小項目で構成した。

大項目「学習・行事」の中項目としては、「読み・書き」「話す・聞く」「計算・測定」「お金の計算」「お金の管理」「携帯電話」「情報機器の操作」「係・当番」「行事」「安全」の10中項目を選定した。この中項目に対してそれぞれ具体的な学習例である小項目をそれぞれ一つずつ選定し、大項目「学習・行事」は10の小項目で構成した。

これらをあわせて5つの大項目、39の中項目、51の小項目で構成した質問紙を作成した。51項目について「学校で学んでよかったか」について質問し、「大変良い」「良い」「ふつう」「あまり良くない」「良くない」の5件法で回答を求めた。

また、51項目に関して、卒業生本人の現在の生活で困っていることについて、卒業生本人に自由記述を求めた。

2. 調査の実施

(1) 調査対象

T特別支援学校を昭和57年3月～平成29年3月に卒業し、同窓生親の会の会員である170名の卒業生及びその保護者167名を対象とした。

(2) 調査手続き

調査を実施するにあたり、同窓生親の会での行事で調査の目的の説明と依頼を行い、同窓生親の会役員の同意を得た上で郵送にて配布を行った。記入期

間は2週間とし、回収は郵送による方法を取った。調査用紙と併せて、在学生と卒業生に必要な在学時の教育内容や教育課程のより良い編成に向けた基礎資料を得る目的という調査の趣旨と、プライバシーの守秘と富山大学の紀要にて結果を報告する旨の文書を付けた。実施期間は平成29年9月とした。

3. 調査結果の集計及び分析方法

調査結果は原則として質問紙の各項目ごとに単純集計によって分析した。自由記述の内容は、現在の生活で困っている記述の中から在学中の教育活動の改善につながると考えられる内容を取り出しカテゴリー分けを行った。

4. 倫理的配慮

本研究では、調査の目的、調査の回答は任意であることについて、卒業生と保護者に対して文書で説明した。卒業生にとって理解が困難である部分については保護者に口頭による説明を加えてもらうことを合わせて文書にて依頼した。個人の情報について配慮して統計処理を行うこと、得られたデータは責任をもって管理し分析後は処理することについても文書で説明した。質問紙を配布し、回答をもって同意を得たこととした。

Ⅲ. 結果

1. 卒業生本人からの回答について

(1) 回収状況

170名のうち郵送で76名の卒業生から回答を得た。そのうち、ほとんどが未記入であった回答および本人の意思が明確ではない旨の保護者による記載があった回答9名分を除く67名からの回答を分析対象とした。回収率は40.1%であった。本調査は、卒業生の卒業経過年数により回答者を「卒業後1～3年」「卒業後4～10年」「卒業後10年超」の3グループとした。この年数の区切りについては、T特別支援学校の教育課程の見直しの時期を考慮した。

なお、67名の回答には、質問文を本人に対して保護者が読み上げて本人が記入した回答や、本人が口頭で答えて保護者が記入した回答を含んでいる。

(2) 回答している卒業生本人について

卒業生本人67名の属性に関する回答について、以下に詳細を述べる。

①卒業生の在校期間

T特別支援学校での在籍年数は、小学部から12年間13名(19.4%)、中学部から6年間31名(46.3%)、高等部から3年間23名(34.3%)だった。

②卒業後の経過年数

卒業後の経過年数については、卒業して1～3年16名(23.9%)、4～10年27名(40.3%)、10年超24名(35.8%)だった。

③卒業生の現在の就労先

一般企業28名(41.8%)、移行支援事業所3名(4.5%)、就労継続A型事業所8名(11.9%)、就労継続B型事業所21名(31.3%)、生活介護事業所7名(10.5%)、在宅0名(0.0%)だった。

2. 卒業生保護者からの回答について

(1) 回収状況

167名のうち郵送で73名の保護者から回答を得た。回収率は43.7%であった。

(2) 回答している保護者について

保護者73名の属性に関する回答について、以下に詳細を述べる。

① 性別

保護者の73名の内訳は男15名(20.5%)、女58名(79.5%)だった。

② 保護者の年齢

30代2名(2.7%)、40代10名(13.7%)、50代38名(52.1%)、60代15名(20.5%)、70代7名(9.6%)、80代1名(1.4%)だった。

③ 卒業生の在校期間

T特別支援学校で卒業生が過ごした在籍年数は、小学部から12年間18名(24.7%)、中学部から6年間32名(43.8%)、高等部から3年間23名(31.5%)、だった。

④ 卒業後の経過年数

卒業して1～3年16名(21.9%)、4～10年30名(41.1%)、10年超27名(37.0%)だった。

3. 卒業生本人の在学中の学習に対する満足度について

51項目について、卒業生本人の回答結果を表1に示す。ここでは、「大変良い」と「良い」、「あまり良くない」と「良くない」を合わせて集計を行い、それぞれの人数と割合を示した。

(1) 卒業後1～3年経過の卒業生本人の満足度

卒業生の満足度(大変良い、良いを合わせた割合)について卒業後経過年数(1～3年、4～10年、10年超)で比較すると、卒業後1～3年経過の卒業生本人の満足度が高く80%以上の項目は、㉞交通機関の利用93.8%、㉟施設の利用87.5%、㊱余暇活動87.5%、㊲応対87.5%、①働く体験(作業学習)87.5%、②働く体験(チャレンジ活動)87.5%、④働く態度(集中・持続力)81.3%、⑬話す・聞く81.3%、⑭お金の管理81.3%、⑯清潔81.3%、⑰洗濯、アイロン掛け81.3%、㉠人との関わり81.3%、⑳決まり・マナー81.3%であった。

卒業後1～3年経過の卒業生本人の満足度が低く50%以下の項目は、㉡家庭生活37.5%、㉢福祉サービスの利用37.5%、㉣将来の自分50.0%、④異性との関わり50.0%、④計算・測定50.0%であった。

(2) 卒業後4～10年経過の卒業生本人の満足度

卒業後4～10年経過の卒業生本人の満足度が高く80%以上の項目は、㉞行事92.6%、①働く体験(作業学習)88.9%、施設の利用85.2%であった。

卒業後4～10年経過の卒業生本人の満足度が低く50%以下の項目は、㉢福祉サービスの利用22.2%、㉠選挙40.7%、④異性との関わり40.7%、㉡卒業後の家庭生活44.4%、㉣天気・気温48.1%、㉣将来の自分48.1%、④計算・測定48.1%であった。

(3) 卒業後10年超経過の卒業生本人の満足度

卒業後10年超経過の卒業生本人の満足度が60%以上の項目は、㉞行事70.8%、㉠排泄62.5%、㉟施設の利用62.5%、㉞交通機関の利用62.5%、㉡読み・書き62.5%であった。

卒業後10年経過の卒業生本人の満足度が特に低く30%以下の項目は、⑮進路の選択(自分の得意不得意、自己選択・自己決定)25.0%、③働く体験(目標設定・自己評価・他者評価)29.2%、㉣将来の自分29.2%、㉡卒業後の家庭生活29.2%、㉠選挙29.2%、㉟情報機器の操作29.2%であった。

(1)(2)(3)の結果から、全ての卒業生本人に共通して満足度が高く70%以上の項目は、㉞行事で、1～3年経過の卒業生では75.0%、4～10年経過の卒業生では92.6%、10年超経過の卒業生では70.8%であった。全ての卒業生本人に共通して満足度が低く50%以下の項目は、㉣将来の自分、㉡卒業後の家庭生活、㉢福祉サービスの利用、④異性との関わり、④計算・測定であった。

(4) 「労働」に関する項目の満足度

表 1 在学中の学習に対する満足度に関する卒業生本人の回答結果

大項目	中項目	小項目	具体的な学習内容	たいへんよい・よい			ふつう			あまりよくない・よくない											
				1~3年 (n=16)	4~10年 (n=27)	10年超 (n=24)	1~3年 (n=16)	4~10年 (n=27)	10年超 (n=24)	1~3年 (n=16)	4~10年 (n=27)	10年超 (n=24)									
				人数 (A)割合 (%)	人数 (A)割合 (%)	人数 (A)割合 (%)	人数 (A)割合 (%)	人数 (A)割合 (%)	人数 (A)割合 (%)	人数 (A)割合 (%)	人数 (A)割合 (%)	人数 (A)割合 (%)									
働くこと	働く体験	① 働く体験1	作業学習	14	87.5	24	88.9	14	58.3	1	6.3	3	11.1	8	37.5	1	6.3	0	0.0	1	4.2
		② 働く体験2	チャレンジ活動	14	87.5	21	77.8	12	50.0	2	12.5	5	22.2	10	41.7	0	0.0	0	0.0	2	8.3
		③ 働く体験3	目標設定、自己評価、他者評価	11	68.8	18	66.7	7	29.2	4	25.0	9	33.3	15	62.5	1	6.3	0	0.0	2	8.3
	働く態度	④ 働く態度1	集中力、持続力	13	81.3	21	77.8	11	45.8	3	18.8	6	22.2	11	45.8	0	0.0	0	0.0	2	8.3
		⑤ 働く態度2	責任、責任感	12	75.0	17	63.0	12	50.0	4	25.0	10	37.0	10	41.7	0	0.0	0	0.0	2	8.3
		⑥ 働く態度3	安全、注意力	9	56.3	17	63.0	10	41.7	6	37.5	10	37.0	11	45.8	1	6.3	0	0.0	3	12.5
		⑦ 働く態度4	ストレスへの対応、気分転換、休憩時間の過ごし方	10	62.5	15	55.6	9	37.5	5	31.3	12	44.4	11	45.8	1	6.3	0	0.0	4	16.7
	働く技能	⑧ 働く技能1	正確さ、手順を守る、指示通りに取り組む	9	56.3	20	74.1	14	58.3	7	43.8	7	25.9	6	25.0	0	0.0	0	0.0	4	16.7
		⑨ 働く技能2	体の使い方、作業スピード、効率、工夫	9	56.3	18	66.7	11	45.8	6	37.5	9	33.3	10	41.7	1	6.3	0	0.0	3	12.5
	職場での人との関わり	⑩ 職場での人との関わり1	挨拶、返事、報告、連絡	12	75.0	21	77.8	11	45.8	3	18.8	5	18.8	11	45.8	1	6.3	1	3.7	2	8.3
			人との協力、心ざらい態度	9	56.3	17	63.0	11	45.8	6	37.5	9	33.3	9	37.5	1	6.3	1	3.7	4	16.7
		⑪ 進路の選択	進路先見学、事業所見学	12	75.0	19	70.4	13	54.2	4	25.0	7	25.9	9	37.5	0	0.0	1	3.7	2	8.3
			校外就業体験	12	75.0	21	77.8	12	50.0	3	18.8	5	18.8	10	41.7	1	6.3	1	3.7	2	8.3
	⑫ 進路の選択	専攻学習、専攻学習、進路決定、報告書	10	62.5	20	74.1	10	41.7	5	31.3	7	25.9	12	50.0	1	6.3	0	0.0	2	8.3	
		自分の得意・不得意、自己選択、自己決定	5	31.3	18	66.7	6	25.0	8	50.0	9	29.6	17	70.8	2	12.5	1	3.7	1	4.2	
生活	食事	⑬ 食事	朝食、食事マナー、カロリーバランス	10	62.5	15	55.6	14	58.3	6	37.5	11	40.7	8	33.3	0	0.0	1	3.7	2	8.3
		⑭ 排せつ	排便、早起きなどの習慣、規則正しい生活	9	56.3	20	74.1	13	54.2	5	31.3	7	25.9	8	33.3	2	12.5	0	0.0	3	12.5
		⑮ 排せつ	トイレのマナー、排せつの仕方、生活の节度	12	75.0	20	74.1	15	62.5	4	25.0	7	25.9	7	29.2	0	0.0	0	0.0	2	8.3
	清潔	⑯ 清潔	衣類の洗濯、TPOや気象に合わせた服装、衣類の整備	11	68.8	19	70.4	12	50.0	4	25.0	7	25.9	9	37.5	1	6.3	1	3.7	3	12.5
		⑰ 清潔	ひげ、洗顔、歯磨き、入浴、身だしなみ	13	81.3	19	70.4	14	58.3	3	18.8	8	29.6	8	33.3	0	0.0	0	0.0	2	8.3
	手伝い	⑱ 手伝い	掃除、洗濯、調理、買い物などの家事	11	68.8	21	77.8	14	58.3	4	25.0	6	22.2	8	33.3	1	6.3	0	0.0	2	8.3
		⑲ 調理	簡単な調理、食事・弁当作り、配膳、片付け	11	68.8	19	70.4	13	54.2	4	25.0	5	22.2	6	25.0	1	6.3	2	7.4	5	20.8
	買い物	⑳ 買い物	日用品、衣類の購入、学習立て	10	62.5	15	55.6	13	54.2	5	31.3	9	33.3	6	25.0	1	6.3	2	7.4	5	20.8
		㉑ 清潔	洗濯、アイロン掛け	13	81.3	18	66.7	10	41.7	2	12.5	7	25.9	9	37.5	1	6.3	2	7.4	5	20.8
	ごみ	㉒ ごみ	掃除、ゴミ出し	9	56.3	15	55.6	11	45.8	6	37.5	11	40.7	10	41.7	1	6.3	0	0.0	3	12.5
		㉓ 廃棄	ゴミ出し、資源ごみの分別、リサイクル	9	56.3	19	70.4	11	45.8	6	37.5	7	25.9	8	33.3	1	6.3	1	3.7	5	20.8
	ふしや・時間	㉔ ふしや・時間	スケジュール管理、時間	8	27.5	15	55.6	9	37.5	8	50.0	10	37.0	10	41.7	2	12.5	1	3.7	5	20.8
		㉕ 天気・気温	天気予報の活用、天気・気象に合わせた物の準備	10	62.5	18	66.7	14	58.3	6	37.5	9	33.3	6	25.0	0	0.0	0	0.0	2	8.3
	受診	㉖ 受診	給食、健康	10	62.5	18	66.7	10	41.7	6	37.5	9	33.3	11	45.8	0	0.0	0	0.0	3	12.5
		㉗ 通学	通学について、授業の方法	11	68.8	11	40.7	10	41.7	4	25.0	12	44.4	10	41.7	1	6.3	3	11.1	4	16.7
卒業後の生活	㉘ 自身の生活	⑬ 自身の生活	8	50.0	13	48.1	7	29.2	6	37.5	13	48.1	14	58.3	2	12.5	1	3.7	3	12.5	
	㉙ 卒業後の希望生活	⑭ 卒業後の希望生活	5	31.3	12	44.4	7	29.2	9	56.3	13	48.1	15	62.5	1	6.3	2	7.4	2	8.3	
㉚ 福祉サービスの利用	福祉サービスについて、施設の利用	5	31.3	6	22.2	8	33.3	9	56.3	18	66.7	12	50.0	1	6.3	3	11.1	4	16.7		
余暇	施設の利用	⑯ 施設の利用	体育館、カプセル、映画館などの利用	14	87.5	23	85.2	15	62.5	2	12.5	4	14.8	9	37.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
		交通機関の利用	バス、電車の利用、時刻表、時刻表の読み方	15	93.8	21	77.8	15	62.5	1	6.3	6	22.2	7	29.2	0	0.0	0	0.0	2	8.3
		余暇活動	家庭での過ごし方(趣味)、友達との外出、連絡の取り方	14	87.5	18	66.7	10	41.7	2	12.5	9	33.3	12	50.0	0	0.0	0	0.0	2	8.3
人との関わり	対応	⑰ 対応	言葉、挨拶、挨拶、連絡、挨拶、報告	14	87.5	19	70.4	12	50.0	2	12.5	8	22.2	10	41.7	0	0.0	2	7.4	2	8.3
		⑱ 人との関わり	言葉遣い、場や人に応じた態度、ふるまい、距離感	13	81.3	16	59.3	11	45.8	2	12.5	9	33.3	10	41.7	1	6.3	2	7.4	3	12.5
		⑲ 異性との関わり	異性の認識	8	50.0	11	40.7	7	29.2	6	37.5	13	48.1	14	58.3	2	12.5	3	11.1	3	12.5
⑳ 住まい・マナー	住まい・マナー	13	81.3	17	63.0	11	45.8	2	12.5	9	33.3	11	45.8	1	6.3	1	3.7	2	8.3		
学習・行事	読み書き	㉑ 読み書き	漢字、算数、自記、J#E	12	75.0	20	74.1	15	62.5	3	18.8	7	25.9	6	25.0	1	6.3	0	0.0	3	12.5
		㉒ 話す・聞く	分かりやすく伝えること、正しく聞き取ること	13	81.3	19	70.4	14	58.3	2	12.5	7	25.9	6	25.0	1	6.3	1	3.7	4	16.7
	計算・測定	㉓ 計算・測定	計算、目録、測定(長さ、重さ、かさ)	8	50.0	13	48.1	10	41.7	6	37.5	12	44.4	7	29.2	2	12.5	2	7.4	7	29.2
		㉔ お金の計算	おつり、割引、お釣金、消費税	10	62.5	17	63.0	9	37.5	4	25.0	8	29.6	10	41.7	2	12.5	2	7.4	5	20.8
	お金の管理	㉕ お金の管理	小売りの購入、銀行・ATMの利用	13	81.3	20	74.1	9	37.5	2	12.5	5	18.8	8	33.3	1	6.3	2	7.4	7	29.2
		㉖ 携帯電話	携帯電話の使い方、メール、携帯電話のマナー	11	68.8	19	70.4	8	33.3	5	31.3	8	29.6	12	50.0	0	0.0	0	0.0	4	16.7
	情報機器の操作	㉗ 情報機器の操作	パソコン、タブレット、デジタルカメラ	11	68.8	18	66.7	7	29.2	5	31.3	8	29.6	15	62.5	0	0.0	1	3.7	2	8.3
		㉘ 係・指導	パソコン活動、委員会、児童生徒会、職業の係活動	12	75.0	21	77.8	13	54.2	4	25.0	5	22.2	9	37.5	0	0.0	0	0.0	2	8.3
	行事	㉙ 行事	校外学習、宿泊学習、修学旅行、学習発表会	12	75.0	25	92.6	17	70.8	3	18.8	2	7.4	4	16.7	1	6.3	0	0.0	3	12.5
		㉚ 安全	道具の使用、避難訓練、防災の学習、交通安全教室	12	75.0	19	70.4	14	58.3	3	18.8	8	29.6	7	29.2	1	6.3	0	0.0	3	12.5

「労働」に関する項目に着目すると、卒業後1～3年、4～10年経過の卒業生本人の満足度が共に70%以上の項目は、①働く体験(作業学習)、②働く体験(チャレンジ活動)、④働く態度(集中力、持続力)、⑩職場での人との関わり(挨拶、返事、報告、連絡)、⑫進路の選択(進路先見学・事業所見学)、⑬進路の選択(校外就業体験)であり、「労働」に関する15項目中6項目だった。10年超経過の卒業生においても、①働く体験(作業学習)、②働く体験(チャレンジ活動)、⑫進路の選択(進路先見学・事業所見学)、⑬進路の選択(校外就業体験)は50%を超え上位4項目だった。

(5) 「生活」に関する項目の満足度

「生活」に関する項目に着目すると、卒業後1～3年、4～10年経過の卒業生本人の満足度が共に70%以上の項目は、⑮排せつ、⑲清潔であり、「生活」に関する19項目中2項目だったが、卒業後1～3年経過の卒業生本人のみでは、⑲洗濯、4～10年経過の卒業生本人のみにおいては、⑲睡眠、⑲着衣、⑲手伝い、⑲調理だった。10年超経過の卒業生本人においては、62.5%の⑮排せつが一番高く、次いで、⑲清潔、⑲手伝い、⑲食事、⑲調理の順で高かった。

T 特別支援学校において、日常生活の指導や生活単元学習、チャレンジ活動の中で学習した内容が多く含まれた。

(6) 「余暇」に関する項目の満足度

「余暇」に関する項目に着目すると、卒業後1～3年、4～10年経過の卒業生本人の満足度が共に70%以上の項目は、⑯施設の利用、⑳交通機関の利用であり、「余暇」に関する3項目中2項目だった。卒業後1～3年経過の卒業生本人においては3項目全てが80%を超えており、3項目を平均すると89.6%だった。特にバスや電車の利用、時刻表の利用の⑳交通機関の利用が93.8%と高かった。10年超経過の卒業生本人においても⑯施設の利用、⑳交通機関の利用は共に62.5%であり、アンケートの全回答結果においても一番高い満足度となっている。

(7) 「人との関わり」に関する項目の満足度

「人との関わり」に関する項目に着目すると、卒業後1～3年、4～10年経過の卒業生本人の満足度が共に70%以上の項目は、「人との関わり」に関する4項目中⑳対応の1項目だった。卒業後1～3年経過の卒業生本人においては、言葉遣い、場や人に応じた態度、振る舞い、距離感などの㉑人との関わり

わり、外出のルール、迷惑をかけないマナー、生活講座での学習などの④いきまり・マナーも共に80%を超えている。

(8)「学習・行事」に関する項目の満足度

「学習・行事」に関する項目に着目すると、卒業後1～3年、4～10年経過の卒業生本人の満足度が共に70%以上の項目は、「学習・行事」に関する10項目中、⑫読み・書き、⑬話す・聞く、⑭お金の管理、⑮係・当番、⑯行事、⑰安全の6項目だった。特に、校外学習、宿泊学習、修学旅行など⑯行事においては10年超経過の卒業生も含め70%を超えた高い項目であった。一方で、10年超経過の卒業生において、パソコン、タブレット、携帯電話などの⑱情報機器の操作が他の項目と比較して低く、他の年代との差が大きかった。近年は教育課程に位置付けて学習を行っているが10年以上前には教育課程への位置付けがまだなされていなかったことを考えると、時代の流れを反映した結果と言えよう。

4. 卒業生保護者の学校における学習に対する満足度について

51項目について、卒業生保護者の回答結果を表2に示す。ここでは、「大変良い」と「良い」、「あまり良くない」と「良くない」を合わせて集計を行い、それぞれの人数と割合を示した。

(1) 卒業後1～3年経過の卒業生保護者の満足度

卒業生保護者の満足度（大変良い、良いを合わせた割合）について卒業後経過年数（1～3年、4～10年、10年超）で比較すると、卒業後1～3年経過の卒業生保護者の満足度が80%以上の項目は、①働く体験（作業学習）87.5%、②働く体験（チャレンジ活動）87.5%、④働く態度（集中力・持続力）87.5%、⑤働く態度（意欲、責任感）87.5%、⑥働く態度（安全、注意力）87.5%、⑩職場での人との関わり（挨拶、返事、報告、連絡）93.8%、⑪職場での人との関わり（人との協力、ふさわしい態度）87.5%、⑫進路の選択（進路先見学、事業所見学）93.8%、⑬進路の選択（校外就業体験）93.8%、⑭進路の選択（事前学習、事後学習、激励会、報告会）87.5%、⑯食事81.3%、⑰排せつ81.3%、⑱着衣81.3%、⑲清潔93.8%、⑳手伝い87.5%、㉑調理87.5%、㉒洗濯、㉓清掃81.3%、㉔施設の利用93.8%、㉕交通機関の利用87.5%、㉖余暇活動87.5%、㉗読み・書き81.3%、㉘話す・聞

く81.3%、㉙情報機器の操作81.3%、㉚係・当番100%、㉛行事100%、㉜安全93.8%であった。中でも、満足度が90%以上だったものは、⑫進路先見学や⑬校外就業体験、チャレンジ活動や委員会などの⑮係・当番や、校外学習、修学旅行などの⑯行事であり、中でも⑮係・当番や⑯行事は100%であった。

卒業後1～3年経過の卒業生保護者の満足度が低く50%以下の項目は、㉞将来の自分37.5%、㉟家庭生活37.5%、㊱福祉サービスの利用37.5%であった。

(2) 卒業後4～10年経過の卒業生保護者の満足度

卒業後4～10年経過の卒業生保護者の満足度が80%以上の項目は、①働く体験（作業学習）86.7%、②働く体験（チャレンジ活動）86.7%、④働く態度（集中力・持続力）83.3%、⑧働く技能（正確さ、手順を守る、指示通りに取り組む）83.3%、⑩職場での人との関わり（挨拶、返事、報告、連絡）83.3%、⑫進路の選択（進路先見学、事業所見学）83.3%、⑬進路の選択（校外就業体験）86.3%、⑰手伝い83.3%、⑱調理80.0%、㉒施設の利用80.0%、㉕交通機関の利用90%、㉟対応（返事、挨拶、報告、連絡、相談、接客、電話）80.0%、㉗読み書き86.7%、㉚係・当番86.7%、㉛行事90.0%であった。中でも、満足度が90%以上だったものは、バス、電車の利用、時刻表の利用の㉞公共交通機関の利用と、校外学習、修学旅行などの㉛行事であった。

卒業後4～10年経過の卒業生保護者の満足度が低く50%以下の項目は、㉟美化（部屋の整理整頓、装飾）、㊱福祉サービスの利用43.3%、㉚異性との関わり50.0%であった。

(3) 卒業後10年超経過の卒業生保護者の満足度

卒業後10年超経過の卒業生保護者の満足度が60%以上の項目は、①働く体験（作業学習）63.0%、㉕交通機関の利用66.7%、㉛行事63.0%であった。

卒業後10年超の卒業生保護者の満足度が特に低く30%以下の項目は、㉞将来の自分29.9%、⑭お金の管理（小遣い帳の記入、銀行・ATMの利用）22.2%、㉟携帯電話（携帯電話の使い方、メール、携帯電話のマナー）22.2%、㉙情報機器の操作（パソコン、タブレット、デジカメ）29.6%であった。

10年超の保護者の満足度で最も高いものは

表2 在学中の学習に対する満足度に関する卒業生保護者の回答結果

大項目	中項目	小項目	具体的な学習例	たいへんよい・よい						ふつう						あまりよくない・よくない					
				1~3年 (n=16)		4~10年 (n=30)		10年超 (n=27)		1~3年 (n=16)		4~10年 (n=30)		10年超 (n=27)		1~3年 (n=16)		4~10年 (n=30)		10年超 (n=27)	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
働くこと	働く体験	① 働く体験1	作業学習	14	87.5	26	86.7	17	63.0	2	12.5	3	10.0	8	29.6	0	0.0	1	3.3	2	7.4
		② 働く体験2	チャレンジ活動	14	87.5	26	86.7	14	51.9	2	12.5	4	13.3	9	33.3	0	0.0	0	0.0	4	14.8
		③ 働く体験3	目標設定、自己評価、他者評価	11	68.8	19	63.3	10	37.0	5	31.3	10	33.3	14	51.9	0	0.0	1	3.3	3	11.1
		④ 働く態度1	集中力、持続力	14	87.5	25	83.3	13	48.1	2	12.5	5	16.7	9	33.3	0	0.0	0	0.0	5	18.5
	働く態度	⑤ 働く態度2	意欲、責任感	14	87.5	23	76.7	14	51.9	2	12.5	7	23.3	10	37.0	0	0.0	0	0.0	3	11.1
		⑥ 働く態度3	安全、注意力	14	87.5	22	73.3	15	55.6	2	12.5	7	23.3	9	33.3	0	0.0	1	3.3	3	11.1
		⑦ 働く技能1	ストレスへの対応、気分転換、休憩時間の過ごし方	10	62.5	21	70.0	12	44.4	6	37.5	7	23.3	9	33.3	0	0.0	2	6.7	6	22.2
		⑧ 働く技能2	正確さ、手順を守る、指示通りに取り組む	12	75.0	25	83.3	15	55.6	4	25.0	5	16.7	9	33.3	0	0.0	0	0.0	3	11.1
	職場での人との関わり	⑨ 職場での人との関わり1	体の使い方、作業スピード、効率、工夫	12	75.0	23	76.7	10	37.0	4	25.0	7	23.3	13	48.1	0	0.0	2	6.7	4	14.8
		⑩ 職場での人との関わり2	挨拶、返事、報告、連絡	15	93.8	25	83.3	13	48.1	0	0.0	3	10.0	13	48.1	1	6.3	2	6.7	1	3.7
		⑪ 職場での人との関わり3	人との協力、ふさわしい態度	14	87.5	21	70.0	10	37.0	2	12.5	8	26.7	14	51.9	0	0.0	1	3.3	3	11.1
		⑫ 進路の選択1	進路先見学、事業所見学	15	93.8	25	83.3	12	44.4	1	6.3	5	16.7	13	48.1	0	0.0	0	0.0	2	7.4
生活	⑬ 食事	自分の得意・不得意、自己選択、自己決定	10	62.5	20	66.7	11	40.7	6	37.5	8	26.7	12	44.4	0	0.0	2	6.7	4	14.8	
	⑭ 掃除	朝食、食事マナー、カローラーハウス	13	81.3	22	73.3	13	48.1	3	18.8	6	20.0	13	48.1	0	0.0	2	6.7	1	3.7	
	⑮ 排せつ	早寝・早起きなどの習慣、規則正しい生活	11	68.8	22	73.3	16	59.3	5	31.3	7	23.3	10	37.0	0	0.0	1	3.3	1	3.7	
	⑯ 着衣	トイレのマナー、排せつの仕方、生理の手当	13	81.3	23	76.7	16	59.3	3	18.8	7	23.3	9	33.3	0	0.0	0	0.0	2	7.4	
余暇	⑰ 趣味	衣服の着脱、TPOや気温に合わせた服装、衣服の整理	13	81.3	21	70.0	14	51.9	1	6.3	7	23.3	11	40.7	2	12.5	2	6.7	2	7.4	
	⑱ 清掃	ひげ、洗顔、歯磨き、入浴、身だしなみ	15	93.8	23	76.7	14	51.9	1	6.3	6	20.0	9	33.3	0	0.0	1	3.3	4	14.8	
	⑲ 手伝い	掃除、洗濯、調理、買い物などの家事	14	87.5	25	83.3	16	59.3	2	12.5	4	13.3	8	29.6	0	0.0	1	3.3	3	11.1	
	⑳ 調理	簡単な調理、給食・弁当作り、配膳、片付け	14	87.5	24	80.0	14	51.9	1	6.3	4	13.3	9	33.3	1	6.3	2	6.7	4	14.8	
余暇	㉑ 買い物	日用品・衣類の購入、卒業まで	11	68.8	19	63.3	11	40.7	3	18.8	8	26.7	9	33.3	2	12.5	3	10.0	7	25.9	
	㉒ 洗濯	洗濯、アイロン掛け	13	81.3	18	60.0	10	37.0	1	6.3	11	36.7	9	33.3	2	12.5	1	3.3	8	29.6	
	㉓ 清掃	掃除、ゴミ出し	13	81.3	20	66.7	10	37.0	2	12.5	10	33.3	12	44.4	1	6.3	0	0.0	5	18.5	
	㉔ ことみ	ことみ出し、賞状ごみの分別、リサイクル	11	68.8	19	63.3	10	37.0	3	18.8	9	30.0	12	44.4	2	12.5	2	6.7	5	18.5	
余暇	㉕ 美容	部屋の整理整頓・掃除	10	62.5	15	50.0	9	33.3	4	25.0	12	40.0	12	44.4	2	12.5	3	10.0	6	22.2	
	㉖ ことみ・時間	カレンダー、時計、スケジュール、手帳	13	81.3	22	73.3	12	44.4	2	12.5	6	20.0	13	48.1	1	6.3	2	6.7	2	7.4	
	㉗ 天気・気温	天気予報の活用、天気・気温に合わせた物の準備	11	68.8	18	60.0	11	40.7	4	25.0	10	33.3	12	44.4	1	6.3	2	6.7	4	14.8	
	㉘ 睡眠	睡眠、起床	11	68.8	20	66.7	12	44.4	5	31.3	9	30.0	11	40.7	0	0.0	1	3.3	4	14.8	
卒業後の生活	㉙ 進学	進学について、投票の方法	10	62.5	11	36.7	10	37.0	6	37.5	16	53.3	12	44.4	0	0.0	3	10.0	5	18.5	
	㉚ 卒業後の自分	○卒業後の自分・夢	6	37.5	21	70.0	7	25.9	8	50.0	6	20.0	14	51.9	2	12.5	3	10.0	6	22.2	
	㉛ 卒業後の家庭生活	家での役割、一人暮らし	6	37.5	19	63.3	5	18.5	8	50.0	7	23.3	15	55.6	2	12.5	4	13.3	7	25.9	
	㉜ 福祉サービスの利用	福祉サービスについて、市役所の利用	6	37.5	13	43.3	6	22.2	8	50.0	12	40.0	13	48.1	2	12.5	5	16.7	8	29.6	
余暇	㉝ 施設の利用	体育館、カラオケ館、映画館などの利用	15	93.8	24	80.0	13	48.1	1	6.3	5	16.7	12	44.4	0	0.0	1	3.3	2	7.4	
	㉞ 交通機関の利用	バス、電車の利用、時刻表の利用	14	87.5	27	90.0	15	55.6	2	12.5	2	6.7	7	25.9	0	0.0	1	3.3	2	7.4	
	㉟ 余暇活動	家庭での過ごし方(趣味)、友達との外出、連絡の取り方	14	87.5	21	70.0	11	40.7	2	12.5	7	23.3	11	40.7	0	0.0	2	6.7	5	18.5	
	人との関わり	㊱ 対人	通学、挨拶、報告、連絡、相談、挨拶、電話	12	75.0	24	80.0	14	51.9	2	12.5	4	13.3	12	44.4	2	12.5	2	6.7	1	3.7
学習・行事	㊲ 人との関わり	言葉遣い、噛みかたの管理、ふるまい、距離感	11	68.8	17	56.7	11	40.7	3	18.8	12	40.0	13	48.1	2	12.5	1	3.3	3	11.1	
	㊳ 異性との関わり	男女の距離感	9	56.3	15	50.0	9	33.3	6	37.5	13	43.3	12	44.4	1	6.3	2	6.7	6	22.2	
	㊴ 多量のマナー	外出のマナー、迷惑行為がないマナー、生活訓練での学習	12	75.0	22	73.3	14	51.9	4	25.0	7	23.3	10	37.0	0	0.0	1	3.3	3	11.1	
	㊵ 読み書き	漢字、手紙、日記、メモ	13	81.3	26	86.7	15	55.6	2	12.5	3	10.0	8	29.6	1	6.3	1	3.3	4	14.8	
学習・行事	㊶ 話す聞く	分かりやすく伝えること、注意を喚起すること	13	81.3	21	70.0	12	44.4	3	18.8	7	23.3	13	48.1	0	0.0	2	6.7	2	7.4	
	㊷ 計算・算数	計算、目算、測定(長さ、重さ、かさ)	11	68.8	16	53.3	9	33.3	3	18.8	11	36.7	13	48.1	2	12.5	3	10.0	5	18.5	
	㊸ 社会の計算	かつり、割り、割り勘、消費税	11	68.8	20	66.7	7	25.9	3	18.8	7	23.3	14	51.9	2	12.5	3	10.0	6	22.2	
	㊹ 社会の管理	小さい帳の記入、銀行・ATMの利用	11	68.8	19	63.3	6	22.2	3	18.8	8	26.7	13	48.1	2	12.5	3	10.0	8	29.6	
学習・行事	㊺ 情報機器の操作	携帯電話の使い方、メール、携帯電話のマナー	11	68.8	19	63.3	6	22.2	3	18.8	9	30.0	16	59.3	0	0.0	2	6.7	5	18.5	
	㊻ 身体・健康	パソコン、タブレット、ラジオ	13	81.3	23	76.7	8	29.6	3	18.8	6	20.0	13	48.1	0	0.0	1	3.3	6	22.2	
	㊼ 行事	チャレンジ活動、委員会、児童生徒会、授業の反省会	15	100.0	26	86.7	13	48.1	0	0.0	4	13.3	9	33.3	0	0.0	0	0.0	5	18.5	
	㊽ 安全	校外学習、職場学習、修学旅行、学習委員会	15	100.0	27	90.0	17	63.0	0	0.0	3	10.0	8	29.6	0	0.0	0	0.0	2	7.4	
安全	㊾ 安全	道具の使用、避難訓練、防災の学習、交通安全教室	15	93.8	23	76.7	13	48.1	1	6.3	7	23.3	13	48.1	0	0.0	0	0.0	1	3.7	

66.7%のため、全ての卒業生保護者に共通して満足度が70%以上の項目はなかった。しかしながら、①働く体験（作業学習）、⑳交通機関の利用、㉑行事の三つにおいては、80%、90%以上の満足度である1~3年、4~10年経過の卒業生保護者とは差はあるものの、10年経過の保護者においても60%以上であり、満足が高かった。

全ての卒業生保護者に共通して満足度が低く50%以下の項目は、㉔福祉サービスの利用であった。

(4)「労働」に関する項目の満足度

「労働」に関する項目に着目すると、卒業後1~3年、4~10年経過の卒業生保護者の満足度が共に70%以上の項目は、①働く体験（作業学習）、②働く体験（チャレンジ活動）、④働く態度（集中力、持続力）、⑤働く態度（意欲、責任感）、⑥働く態度（安全、注意力）、⑧働く技能（正確さ、手順を守る、指示通りに取り組む）、⑨働く技能（体の使い方、作業スピード、効率、工夫）、⑩職場での人との関わり（挨拶、返事、報告、連絡）、⑪職場での人との関わり（人との協力、ふさわしい態度）、⑫進路の選択（進路先見学・事業所見学）、⑬進路の選択

（校外就業体験）、⑭進路の選択（事前学習、事後学習、激励会、報告会）であり、「労働」に関する15項目中12項目だった。10年経過の卒業生においても、①働く体験（作業学習）が63.0%で一番高く、②働く体験（チャレンジ活動）、⑤働く態度（意欲、責任感）、⑥働く態度（安全、注意力）、⑧働く技能（正確さ、手順を守る、指示通りに取り組む）、⑩進路の選択（校外就業体験）、⑭進路の選択（事前学習、事後学習、激励会、報告会）は50%以上だった。

(5)「生活」に関する項目の満足度

「生活」に関する項目に着目すると、卒業後1~3年、4~10年経過の卒業生本人の満足度が共に70%以上の項目は㉒食事、㉓排せつ、㉔着衣、㉕清潔、㉖手伝い、㉗調理、㉘こよみ・時間であり、「生活」に関する19項目中7項目だった。10年経過の卒業生保護者においては、59.3%の㉗睡眠、㉓排せつ、㉔手伝いが一番高く、次いで、㉔着衣、㉕清潔、㉗調理が51.9%だった。

(6)「余暇」に関する項目の満足度

「余暇」に関する項目に着目すると、卒業後1~3年、4~10年経過の卒業生保護者の満足度が共に

70%以上の項目は、③⑤施設の利用、③⑥交通機関の利用、③⑦余暇活動であり、「余暇」に関する3項目全てであった。割合を見ると80%、90%を超えているものがほとんどで、余暇の充実が伺われる。10年超経過の卒業生保護者においても卒業生本人と同様に、③⑥交通機関の利用66.7%とアンケートの全回答結果において一番高い満足度となっている。

(7)「人との関わり」に関する項目の満足度

「人との関わり」に関する項目に着目すると、卒業後1～3年、4～10年経過の卒業生保護者の満足度が共に70%以上の項目は③⑧対応（返事、挨拶、報告、連絡、相談、接客、電話）、④⑪きまり・マナー（外出のルール、迷惑をかけないマナー、生活講座での学習）であり、「人との関わり」に関する4項目中2項目だった。10年超経過の卒業生保護者においても③⑧対応（返事、挨拶、報告、連絡、相談、接客、電話）、④⑪きまり・マナー（外出のルール、迷惑をかけないマナー、生活講座での学習）が同様に高く51.9%だった。人との関わりにおいて、④⑩異性との関わりが卒業後1～3年経過の卒業生保護者56.3%、卒業後4～10年経過の卒業生保護者50.0%、卒業後10年超経過の卒業生保護者33.3%であり、他の三つと比較して、そして全体を通して低かった。

(8)「学習・行事」に関する項目の満足度

「学習・行事」に関する項目に着目すると、卒業後1～3年、4～10年経過の卒業生保護者の満足度が共に70%以上の項目は、「学習・行事」に関する10項目中、④②読み・書き、④③話す・聞く、④⑧情報機器の操作、④⑨係・当番、⑤⑩行事、⑤⑪安全の6項目だった。10年超経過の卒業生保護者においては卒業生本人と同様に、⑤⑩行事が63%と一番高く、次いで50%以上のものは④②読み書きの55.6%だった。④⑦携帯電話（携帯電話の使い方、メール、携帯電話のマナー）、④⑧情報機器の操作（パソコン、タブレット、携帯電話）などは他の項目と比較して低く、情報機器、通信機器の普及とともに年間指導計画に位置付けて学習した年代との差が表れたと考えられる。

また、⑤⑩行事（校外学習、宿泊学習、修学旅行）においては卒業後1～3年経過の保護者100%、4～10年経過の保護者90%、10年超経過の保護者63%であり、卒業生本人と同様に、一番満足度の高い項目である。

卒業後1～3年経過の保護者が100%満足している項目は④⑨係・当番であった。卒業後4～10年経過の保護者、10年超経過の保護者においてもそれぞれの区分の項目と比較して高い傾向が見られた。

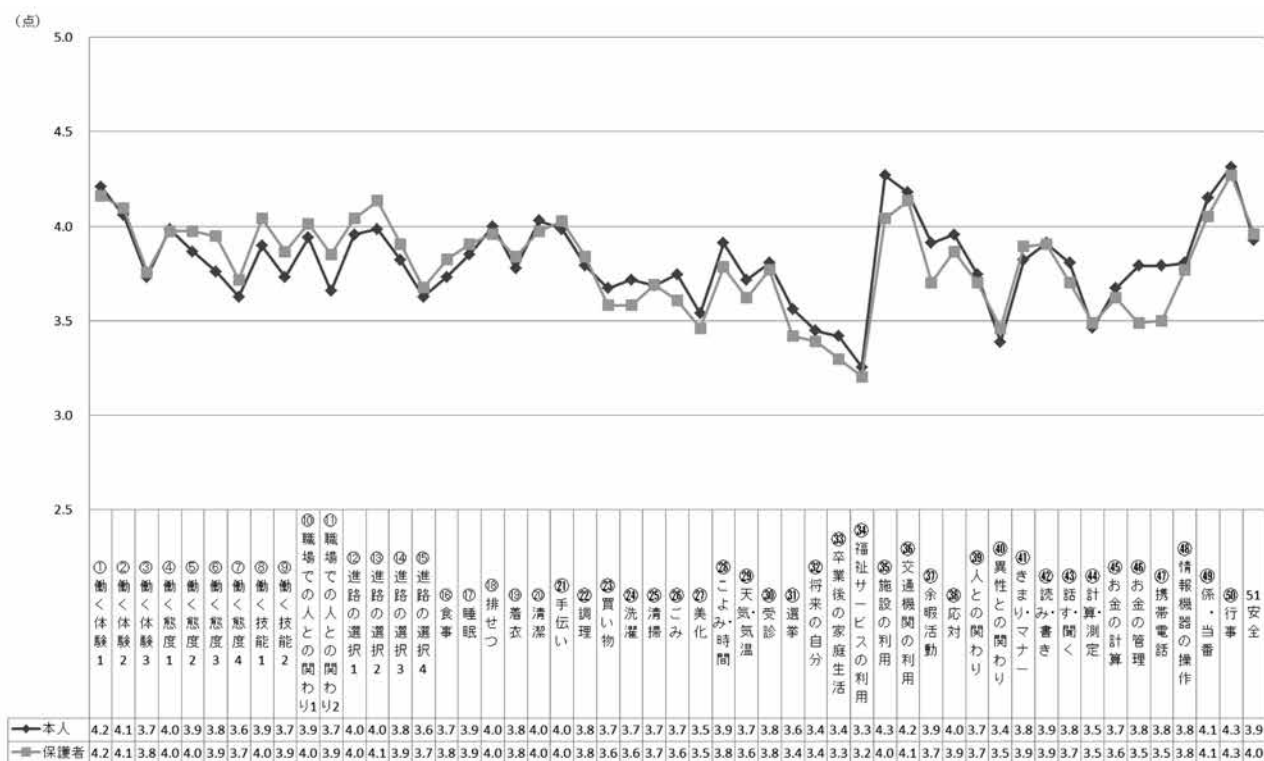


図1 在学中の学習に対する卒業生本人及び保護者の満足度得点の平均

5. 在学中の学習に対する卒業生本人と保護者の評価

次に卒業生本人と保護者の満足度や学校教育への評価に差があるのか、あるいは両者が同様の評価であるのかについて検討を行うため、卒業生本人および保護者の在学中の学習への評価を「大変良い」5点、「良い」4点、「ふつう」3点、「あまり良くない」2点、「良くない」1点として平均得点を求めて比較した。結果を図1に示す。

全体的には、本人と保護者の評価はほぼ同じ傾向がみられた。

本人と保護者ともに評価が高い項目は、⑩校外学習（本人平均得点4.3点、保護者平均得点4.3点：以下同様）、①働く体験（作業学習）（本人4.2、保護者4.2）、⑩交通機関の利用（本人4.2、保護者4.1）、⑩施設の利用（本人4.3、保護者4.0）であった。

本人と保護者共に評価が低い項目は⑭福祉サービスの利用（本人3.3、保護者3.2）、⑩卒業後の家庭生活（本人3.4、保護者3.3）、⑩将来の自分（本人3.4、保護者3.4）、⑩異性との関わり（本人3.4、保護者3.5）、⑩計算・測定（本人3.5、保護者3.5）、⑩選挙（本人3.6、保護者3.4）であった。

「労働」に関しては、保護者の評価の方が本人よ

りもわずかに高かった。

「生活」「余暇」「学習・行事」に関しては、本人の評価の方が保護者よりもわずかに高かった。

「人との関わり」に関しては、保護者と本人の評価がほぼ同じ結果であった。

(1) 卒業後1～3年経過の本人と保護者の結果より

卒業後1～3年経過の卒業生本人と保護者の在学中の学習への評価について平均得点を求めて比較した。結果を図2に示す。

本人の評価が高い項目は、⑩施設の利用と⑩余暇活動4.5点、⑩交通機関の利用、⑩応対、⑩お金の管理、⑩係・当番は4.4点であった。本人の評価が低い項目は、⑩美化、⑩将来の自分、⑩卒業後の家庭生活で3.5点であった。

保護者の評価が高い項目は、⑩施設の利用、⑩係・当番、⑩行事で4.6点であった。次いで⑩進路の選択（校外就業体験）で4.5点であった。保護者の評価が低い項目は、⑩将来の自分、⑩卒業後の生活、⑩福祉サービスの利用の将来の生活に関する項目で3.4点であった。

本人と保護者ともに評価が高い項目は、⑩施設の利用、⑩交通機関の利用など「余暇」に関する項目であった。

本人と保護者ともに評価が低い項目は、⑩将来の

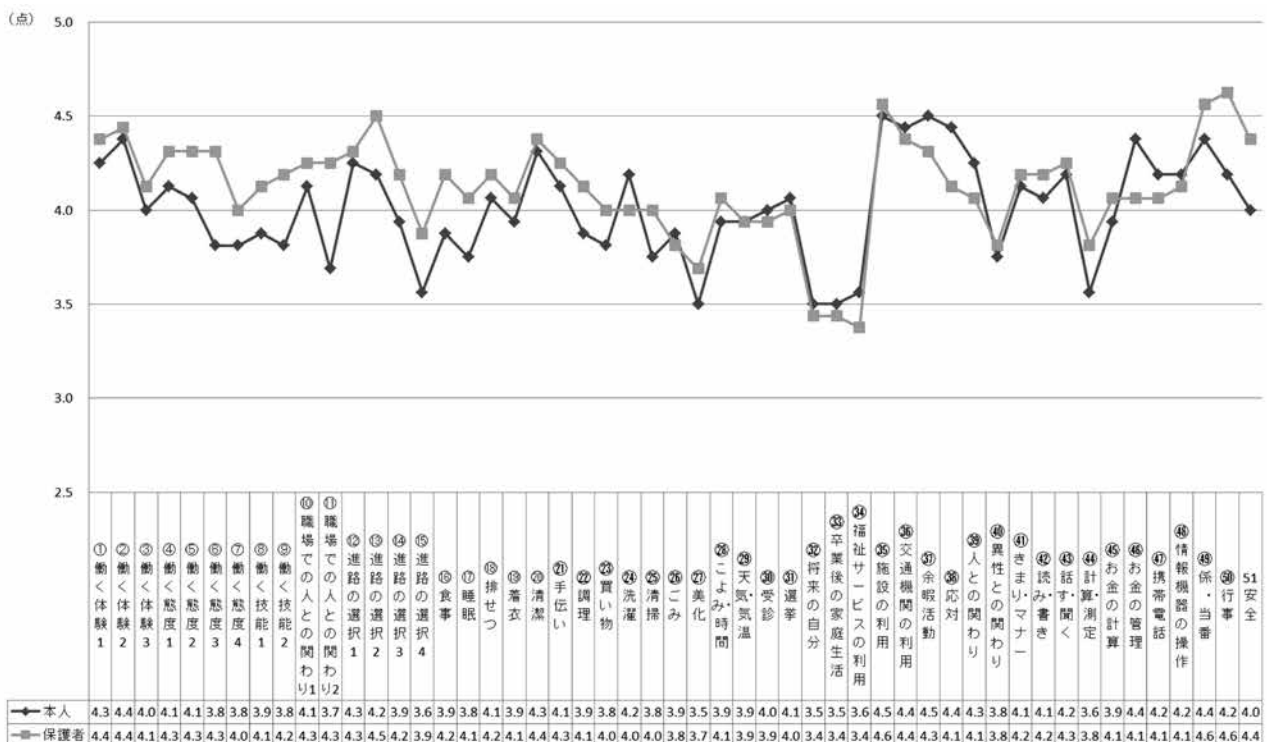


図2 卒業後1～3年の卒業生本人および保護者の在学中の学習に対する満足度得点の平均

自分、③卒業後の生活、④福祉サービスの利用の将来の生活に関する内容であった。

保護者と本人の評価を比較すると、全体的に保護者に比べて本人の方が低い傾向がうかがえた。その中で、保護者と比較して本人の評価が若干高い項目は、②洗濯（本人4.2、保護者4.0）と③⑧対応（本人4.5、保護者4.1）、⑩お金の管理（本人4.4、保護者4.1）であった。

保護者の方が本人よりも評価が高い項目は、⑨人との関わり（本人3.7、保護者4.3）、⑥働く態度（安全・注意力）（本人3.8、保護者4.3）、⑩行事（本人4.2、保護者4.6）であった。

「労働」に関しては、保護者の評価の方が本人の評価と比較して高い傾向がみられた。

「生活」「余暇」「人との関わり」に関しては、保護者と本人の評価はほぼ同じ傾向であった。

(2) 卒業後4～10年経過の卒業生本人と保護者の結果より

卒業後4～10年経過の卒業生本人と保護者の在学中の学習への評価について平均を求めて比較した。結果を図3に示す。

本人の評価が高い項目は、⑩行事4.7点であった。次いで、①働く体験（作業学習）や⑤施設の利用であり4.4、②働く体験（「チャレンジ活動」、③交通

機関の利用と④係・当番は4.3であった。本人の評価が低い項目は、④福祉サービスの利用3.1、⑩異性との関わり3.3、⑩選挙3.4であった。

保護者の評価が高い項目は、⑩行事4.5、④係・当番と、①働く体験（作業学習）4.4、②働く体験（チャレンジ活動）、⑧働く技能（正確さ・手順を守る）、⑩進路の選択（進路先見学）、⑩進路の選択（校外就業体験）、③交通機関の利用4.3であった。保護者の評価が低い項目は、⑩選挙3.3、④福祉サービスの利用3.4であった。

本人と保護者ともに評価が高い項目は、⑩行事と①働く体験（作業学習）、次いで③交通機関の利用であった。また、本人と保護者ともに評価が低い項目は、④福祉サービスの利用、⑩選挙、⑩異性との関わりであった。

保護者と比較して本人の評価がわずかに高い項目は、④携帯電話（本人4.1、保護者3.7）、⑩お金の管理（本人4.0、保護者3.8）であった。

保護者の方が本人よりも満足度がわずかに高い項目は、⑩食事であり本人の満足度は3.7に対して保護者は4.0であった。また⑩情報機器の操作は本人の満足度は4.0に対して保護者は4.2であった。

全体的に、「労働」「生活」「余暇」「人との関わり」に関して、本人と保護者の評価はほぼ同じ傾向で

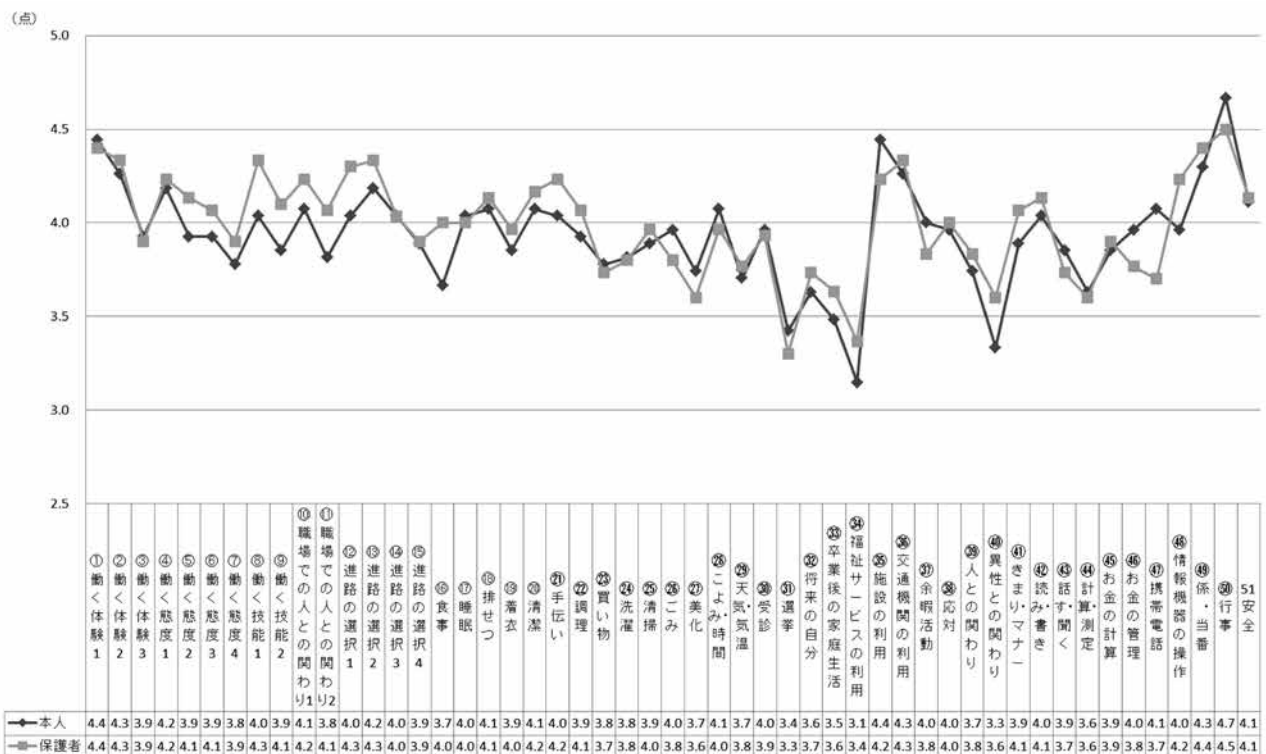


図3 卒業後4～10年の卒業生本人および保護者の在学中の学習に対する満足度得点の平均

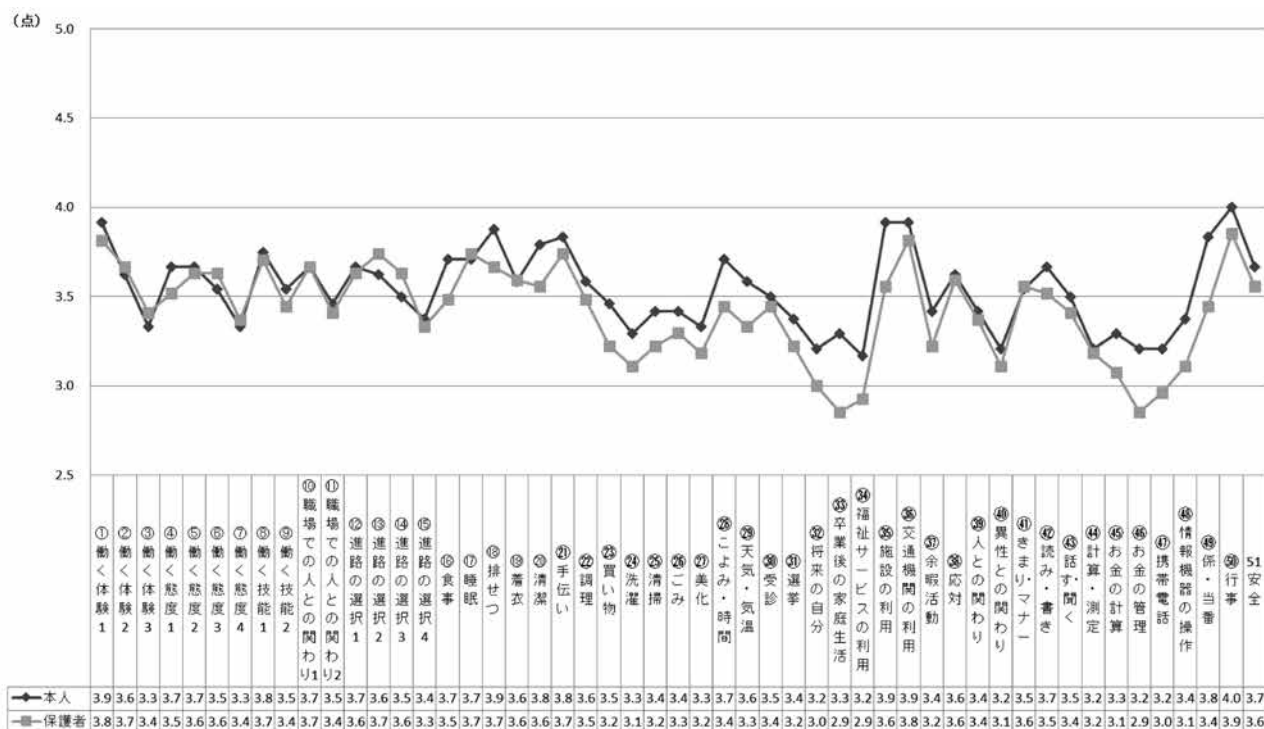


図 4 卒業後 10 年超の卒業生本人および保護者の在学中の学習に対する満足度得点の平均

表 3 卒業生本人が現在の生活において困っていること（自由記述）

小項目	自由記述の内容
③ 働く体験 3	自己評価が難しい (5名)
⑦ 働く態度 4	休憩時間の過ごし方が難しい (6名)
⑨ 働く技能 2	工夫が難しい (2名)
⑯ 食事	肥満・食べ過ぎ (5名)、偏食 (1名)、栄養バランスの乱れ (2名)
⑲ 着衣	気温に合った服装が難しい (5名)
㉒ 調理	包丁を使うことが難しい (2名)
㉓ 買い物	衣服の購入をしたい (3名)
㉔ 洗濯	アイロンがけは一人では難しい (3名)
㉖ ごみ	ごみの分別が難しい (5名)
㉗ 美化	部屋の整理整頓が苦手 (5名)
㉘ こよみ・時間	スケジュール管理を親がしている (1名)
㉛ 選挙	したことがない (6名)、分からないので行きたくない (5名)、親と一緒にいる (1名)
㉜ 将来の自分	結婚できるか不安 (2名)、運転免許が取れるか (1名)、給料が少なくて不安 (2名)
㉝ 卒業後の家庭生活	ひとり暮らしが不安 (8名)
㉞ 福祉サービスの利用	詳しく分からない (3名)
㉟ 余暇活動	親と過ごすことが多い (3名)、子どもの頃は利用できたができなくなる場所もある (1名)
㊴ 異性との関わり	言葉つかいが難しい (6名)、分かりやすく伝えることが難しい (2名)
㊵ 異性との関わり	分からない・難しい (2名)、不安 (1名)、距離感がわからずトラブルになった (1名)
㊷ 読み・書き	読むことが苦手 (4名)、漢字の読み書き苦手 (6名)、読み書きが苦手 (2名)
㊸ 話す・聞く	必要なことが上手に伝えられない (10名)、コミュニケーションが苦手 (6名)、勉強不足 (1名)
㊹ 計算・測定	計算ができない (6名)、複雑な計算が難しい (4名)、勉強不足 (1名)
㊺ お金の計算	お金をつかわない (7名)、金種の使い分けが難しい (4名)、割り勘やお釣りの計算ができない (2名)
㊻ お金の管理	親が管理している (4名)、お金を遣わない (4名)、間違えることが多い (4名)、ATM を使えない (4名)
㊼ 携帯電話	持っていない (1名)、使えない (2名)、トラブルが心配 (2名)
㊽ 情報機器の操作	操作が不安 (2名)、できない (2名)、使用する機会がない (1名)

あった。

(3) 卒業後 10 年超経過の卒業生本人と保護者の結果より

卒業後 10 年超経過の卒業生本人と保護者の在学中の学習への評価について平均を求めて比較した。結果を図 4 に示す。

本人の評価が高い項目は、⑤行事 4.0 であった。次いで①働く体験（作業学習）や⑮排泄、⑮施設の利用、⑮交通機関の利用 3.9、⑧働く技能（正確さ・手順を守る）、⑳清潔、㉑手伝い、④係・当番 3.8 であった。本人の満足度が低い項目は、㉒将来の自分、㉓福祉サービスの利用、⑩異性との関わり、④計算・測定、④お金の管理、④携帯電話 3.2 であった。

保護者の評価が高い項目は、⑤行事 3.9 であった。次いで①働く体験（作業学習）、⑮交通機関の利用 3.8 であった。保護者の評価が低い項目は、㉓卒業後の家庭生活、㉓福祉サービスの利用、④お金の管理 2.9、㉒将来の自分、④携帯電話 3.0、㉔洗濯、⑩異性との関わり、④お金の計算、④情報機器の操作 3.1 であった。

本人と保護者ともに評価が高い項目は、⑤行事、①働く体験（作業学習）、⑮交通機関の利用であった。本人と保護者ともに評価が低い項目は、㉓福祉サービスの利用、㉒将来の自分、④携帯電話、⑩異性との関わり、④お金の管理であった。

保護者と比較して本人の評価がわずかに高い項目は、㉓卒業後の家庭生活（本人 3.3、保護者 2.9）、④お金の管理（本人 3.2、保護者 2.9）であった。全体的に保護者と本人の満足度はほぼ一致していた。

6. 卒業生本人の自由記述の内容より

現在の生活で困っている記述の中から在学中の教育活動の改善につながると考えられる内容を取り出しカテゴリー分けを行った。結果を表 3 に示す。

㉒調理の項目であげられた「包丁を使うことが難しい（2 名）」や④計算・測定の項目であげられた「計算ができない（6 名）、複雑な計算が難しい（4 名）、勉強不足（1 名）」のように在学中に学習をしているにもかかわらず、卒業後の生活において依然として困難さや課題を感じている項目がある。

また、㉑選挙の項目であげられた「したことがない（6 名）、分からないので行きたくない（5 名）」

や、④お金の管理であげられた「ATM を使えない（4 名）」のように、時代背景を受けて近年の学校における教育活動には位置付いたが、以前の卒業生は学習をしていないことから卒業後も経験の機会がないという項目もみられた。

IV. 考察

1. 学校教育目標を明確に反映した教育課程と個別の教育支援計画

今回の結果より、労働に関する項目は本人保護者ともに、満足度や評価は高い結果であった。T 特別支援学校においては、労働に関する学習活動を含むチャレンジ活動や職業・家庭、作業学習、生活単元学習を教育課程に位置付けていることや、体験先見学等を年間指導計画に位置付けて学習活動を行ってきたことが満足度の高さとなって表れたと推察される。また、働く態度において、必要な挨拶、返事、報告、連絡、集中力、持続力は、個別の教育支援計画の「労働」における個人目標や作業学習・進路学習において単元の目標に挙げて取り組まれている内容であった。卒業後も必要とされることであり、卒業生にとっては在学中に学んでよかったこととして捉えていることが示された。

表 4 は、T 特別支援学校の教育課程変遷の大まかな流れを示したものである。T 支援学校の年間指導計画においては、昭和の時代より余暇活動を学習内容に取り入れて実践している。そのため、余暇活動の満足度が高い結果につながっていると考える。更に、5 つの大項目のうちで余暇の満足度が一番高い結果となっているのは、地域で豊かに生活することができるように、個別の教育支援計画の支援目標を「労働」「生活」「余暇」の 3 観点で立てる T 特別支援学校における TOFU プランの導入による効果が大きいと推察される。

また、T 特別支援学校では、生活単元学習や日常生活の指導「朝の会」における生活講座などで人との関わりやマナーを継続的に実施している。満足度の高さはこれらの生活単元学習や日常生活の指導「朝の会」における生活講座でのマナー学習による効果も一つの要因であろうと考える。さらに、「日常生活の指導」の中で、「チャレンジ」の時間に「労働」「生活」「余暇」の視点で家庭や地域での活動に広がるよう家庭と連携しながら仕事チャレンジ、係チャ

レンジ, 余暇チャレンジ(マイチャレンジ), 運動チャレンジを実施してきている。このことから, 毎日取り組んだ教育活動への保護者の満足度の高さの表れであると考えられる。加えて, ②働く体験(チャレンジ活動)の割合が全ての年代の保護者においても高いことから同様のことが推察される。卒業生本人の満足度の結果からも, その二つの項目において満足度が高い結果が得られた。卒業生との会話の中でも, 卒業後も在籍時代に行っていた掃除や洗濯など, 家庭でのチャレンジ活動を継続していることを述べている。T特別支援学校独自の教育課程である日常生活の指導「チャレンジ」が卒業生やその保護者の満足度の高い結果となっていることから, 卒業後も豊かに暮らすための教育的効果となり得ていることが示されたといえよう。

2. 時代の流れを受けて必要な内容を教育課程に位置付けて実施すること

表4に示す通り, 時代背景を考慮して教育課程に位置付けた特徴的な内容を見ると, 「労働」に関しては進路学習, 「生活」に関しては「ATMの利用」や「主権者教育」などがある。特にATMの利用などを含む金銭の管理や携帯電話など, 時代背景を考慮して教育課程や学習内容に位置付けた項目は, 学習を経験した年代の本人と保護者にとっても満足度が高く, それ以前の本人と保護者にとっては満足度が低い結果から, 時代背景を受けた教育課程編成の影響は大きいと考えられる。また, 家庭での過ごし方, 友達との外出, 連絡の取り方などの⑦余暇活動については, 卒業後1~3年のみが高い結果であった。生活単元学習での余暇支援や携帯電話の普及により携帯電話のマナーなどの学習が定着してきた結

表4 T特別支援学校における教育課程変遷の大まかな流れ

卒業後区分	卒業後の年数	年度	西暦	制度等	教育課程の改訂等	年間指導計画に位置付いた指導内容		
						労働	生活	余暇
153年目	1年目	H28	2016	差別解消法			主権者教育導入	
	2年目	H27	2015				ATMの利用	
	3年目	H26	2014				防災教育導入	携帯電話のマナー等(総合)
455年目	4年目	H25	2013	障害者総合支援法				
	5年目	H24	2012					
6510年目	6年目	H23	2011		TOFプラン(個別の指導計画全教科導入)			
	7年目	H22	2010			メモを取ろう(国語)		
	8年目	H21	2009	学習指導要領改訂(個別の教育支援計画策定)	チャレンジタイム(日常生活の指導にて)			携帯電話の活用(情報)
	9年目	H20	2008					
10年超	10年目	H19	2007	特別支援教育	TOFプラン(労働、生活、余暇の3観点で作成)	作業所や会社などについて(調べよう)先輩の体験先見学	銀行の利用(洗濯、アイロン(職家)福祉サービス(総合))	余暇施設、公共施設利用
	11年目	H18	2006	障害者自立支援法	TOFプラン教育支援計画導入		様々な制度	公共施設の利用
	12年目	H17	2005		生活単元学習開始			
	13年目	H16	2004					自分で選んだ〇〇教室
	14年目	H15	2003					
	15年目	H14	2002				職業・家庭科開始	
	16年目	H13	2001					
	17年目	H12	2000		チャレンジタイム開始(自立活動にて)、個別の指導計画作成			
	18年目	H11	1999	学習指導要領改訂(個別の指導計画作成義務づけ)				
	19年目	H10	1998					〇〇教室(通年での取組)
	20年目	H9	1997					〇〇教室(3学期)
	21年目	H8	1996					
	22年目	H7	1995					
	23年目	H6	1994					
	24年目	H5	1993					
	25年目	H4	1992					
	26年目	H3	1991					
	27年目	H2	1990					
	28年目	H1	1989	学習指導要領改訂				
29年(以前)	昭和					※作業学習あり	※余暇に関する単元あり	

果と考えられる。

③①選挙に関しては、全体として本人と保護者ともに評価が低い項目としてあげられた。また卒業後4～10年経過の本人と保護者による評価も低かった。自由記述において「したことがない」という自由記述がみられ、また卒業後4年以上経過した卒業生本人との会話から「選挙について学習しなかった」「学校時代に学習しなかったので、今は選挙に行けない」などの状況がうかがえた。

これらのように、在学中の学習が本人の卒業後の安心できる生活や生活の幅を広げることにつながる可能性があると考えられるため、卒業後の生活を考慮した学習活動を教育課程に位置付ける視点も重要であると考ええる。

3. 生活のつながりや生活の中で活用することを意図した教育活動の工夫

本人の結果では④④計算・測定の項目が低い傾向がうかがえた。自由記述や本人との会話からは、「計算ができなくて困った」「計算が苦手」などがあげられている。計算・測定に関する学習内容は教育課程に位置付けて系統的に実施しているが、卒業後の生活に生かすことができる力までにはなり得ていないことが示唆された。在学中の学習が生活に役立つように学習内容を精選することも大切な視点と言える。

4. 卒業後の生活を見据えて、卒業生や保護者の意見から教育活動や教育課程を検討すること

④④異性との関わりは全ての卒業生において満足度や評価が低かった。T特別支援学校において、異性との関わりについて年間指導計画に位置付けて学習する機会の少なさの表れではないかと考える。自由記述からは「距離感が難しい」「距離感がわからずトラブルになった」などが少数ではあるがあげられており、男女の距離感などの難しさを感じていることがうかがえた。「結婚をしたい」と語る卒業生も多く、結婚へのあこがれや異性と付き合いたいという思いがあると推察される。卒業後の生活や本人の願いを含めて考慮し、在学中に異性とのかわりに関する学習を明確に位置付けて取り組む必要があると考える。

また、具体的には、身近な先輩である卒業生の話を直接聞く機会を増やし、卒業後をイメージするこ

とも大切な学習の機会となると考える。

今回、卒業生本人や保護者からの調査を通して、卒業後の生活をより豊かにする視点での課題が明確になった。教師の考えに加えて卒業生や保護者の意向を反映した教育課程編成や教育活動の推進が一層望まれる。

謝辞

本研究をすすめるにあたり、調査ならびに聞き取りにご協力くださいましたT特別支援学校卒業生ならびに保護者の皆さまに深く感謝いたします。

引用・参考文献

別府さおり・本間貴子・田上幸太・宇佐美太郎・松岡ふみ・居林弘和・西原数馬・伊藤かおり・阿部崇・篠原吉徳・米田宏樹(2010):知的障害特別支援学校卒業生の学習経験の分析—卒業生へのインタビュー調査に基づいて—。筑波大学学校教育論集, 32, 25-39.

別府さおり・田上幸太・阿部崇・宇佐美太郎・松岡ふみ・本間貴子・居林弘和・伊藤かおり・篠原吉徳・米田宏樹(2009):知的障害特別支援学校卒業生の生活の実態から考える学校教育の課題と教育内容(1)—調査結果の分析を中心に—。筑波大学学校教育論集, 31, 21-30.

上岡一世(2007):自立と社会参加を実現する—個別の指導プログラム—。明治図書。

栗林睦美・野崎美保・和田充紀(2018):特別支援学校卒業後における知的障害者の就労・生活・余暇に関する現状と課題—保護者を対象とした質問紙調査から—。富山大学人間発達科学部紀要, 12(2), 135-150.

文部科学省(2016)新学習指導要領のポイント。

文部科学省(2018)特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)。開隆堂出版。

田上幸太・別府さおり・阿部崇・宇佐美太郎・松岡ふみ・本間貴子・居林弘和・伊藤かおり・篠原吉徳・米田宏樹(2009):知的障害特別支援学校卒業生の生活の実態から考える学校教育の課題と教育内容(2)—学校教育に対する評価についての分析を中心に—。筑波大学学校教育論集, 31, 31-52

和田充紀・栗林睦美・池田弘紀（2015）：特別支援学校における『個別の教育支援計画』『個別の指導計画』の活用に関する一考察. 富山大学人間発達科学部紀要, 10(1), 203-216.

(2018年10月22日受付)

(2018年12月19日受理)